

「平成 27 年度第 5 回阿見町外部評価委員会」議事概要

審議会等の名称	平成 27 年度第 5 回阿見町外部評価委員会
開催日時	平成 27 年 10 月 28 日（水） 午前 9 時から午前 11 時 30 分まで
開催場所	阿見町役場仮設庁舎 2 階会議室
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. あいさつ 3. 議 題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 報告書（案）について 4. その他 5. 閉 会
出席者	<p>【委員】 米倉政実委員、山口忍委員、橋本英之委員、齋藤光子委員、吉原一行委員、井上正道委員 計 6 名（欠席なし）</p> <p>【町】 企画財政課：小口課長、川原係長、高橋主任</p>
公開/非公開の別	公開 *傍聴者：なし
会議内容	<p>議事は、議題（1）報告書（案）について事務局より項目ごとに説明後、質疑応答が行われた。内容は以下のとおり。</p> <p><第 3 章></p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果について、報告書の中で整合が取れていない部分がある。 <p>⇒議事概要に合わせ修正することで合意。</p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康部門の介護予防事業（地域支援事業）と福祉部門の町単位老人クラブ補助事業を同じ成果指標で見るのも可能だと思う。成果指標は単年度の成果も必要だが、長期スパンで見るというのもあって良いと思う。例えば介護予防事業への参加者が増えて高齢者の人たちの健康度が高くなり、老人クラブへの参加者が増えたということで、老人クラブの参加者を介護予防事業の成果指標にするのも有り得る。ただし、それは 1 年度だけで効果が出るものでなく、長期スパンで考える必要がある。老人クラブのイベントの参加者が増えたということも介護予防の成果にもなると思う。 ・今の意見は第 4 章、提言のうち、成果指標のところに追加していただきたい。 ・確かに、事業が細分化されていて、そこで評価できないものを無理やり指標にしている。統合するというのは、成果につながらないのに無理やり指標に設定しておいて、全体の成果につながらないため。縦割りで評価している。先ほどの意見は、そこをクロスオーバーして影響を及ぼしている別の課の業務の成果を自分の課で評価しても良いというもの。最終的には総合計画の 5 年間の中で評価しなければならない。 <p><第 4 章 4-1></p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・46 ページの業務改善の数字で、外部評価の実施が影響していることが分かる。 ・昨年の進捗状況について記述するのは今後に役立つ。単年度だけではなく、継続

的にみることは大事。来年度は進捗状況にさらに付け加えて欲しい。

- ・改善と言っても、改善することで影響の大きいものと、改善しても大きな影響がないものが含まれている。例えば広報事業の進捗事業に関しては全戸配布のことが抜けている。そういったことを関係なく、改善したと評価するのはどうか。
- ・改善案を出しても実際には少ないとあるが、言ったからすぐに改善するというのも難しいのだろう。
- ・主な進捗状況とあるが、当面の進捗状況として欲しい。指摘事項で意見が出た内容が進捗状況に出てきていないものが多い。ぜひ、町民の意見だと思って受け取って欲しい。我々6人だけでなく、町民の方も外部評価委員会での議論を聞けば同じように思うのではないかと思う。主な指摘事項は町民の意見だと受け取っていただいて、最終的には指摘事項が無くなるように進捗していただきたい。
- ・外部評価を行って、報告書を作って終わりではなく、担当責任者に方針を書いてもらうことは大事。エビデンスになる。口頭での説明だけでは消えてしまう。
- ・進捗状況は良く改善していると思う。
- ・単年度で改善するのは難しい。
- ・提案のあったものは、優先順位を付けていただいて、実現可能性順で区分けして欲しい。すぐにできること、4～5年経たないとできないこと、10年くらいかからないとできないことを整理して欲しい。時間、予算、マンパワーの都合、他の課との連携などもあるだろうから、それを踏まえて、出来ることからやっていくという意識で取り組んでいく。町民からの意見と捉えると、言ったけれど実現するか分からないというのが納得いかない。実現可能性のランク付けをして、できるところから取り組むというのを行って欲しい。10年後くらいには実現できると書いてあれば、町民としてみれば、10年くらい待てば良いとなる。
- ・報告書案に「実際には少ない」とある。普通は官僚用語でごまかしてしまうが、否定的なことを正直に書くことは重要。大した内容はないが単純明快で良いと思う。もちろん、そこに課題があるということなので、取り組む必要がある。

<第4章 4-2>
(特になし)

<第4章 4-3>

【委員】

- ・事業を評価するわけではなく、職員が適正に評価しているかを評価するという趣旨で、マンネリ化から打破したいということだが、そういうところに働きかけることはできたのかを知りたい。
- ・好事例に出されていたように、資料をフローで書くことで担当課の行っていることを整理するという部分や、成果指標について既に活動しているなかで出せる数字を持っていて、それを出して指標にすれば良いのにと部分に後押しが出来たら良かった。外部評価委員会が職員にとって重荷でなく活性化できる方向に関わっていったのかという部分を知りたい。

【事務局】

- ・本来職員としてやらなければならなかったが出来ていなかったことが、この機会に出来たと思う。例えば他の方に自分の業務を説明するための準備をすること。次の業務に引き継いでいく、議会に対して説明するという機会に活用して使っていくことができる。長い目で見れば効率化につながった。職員のスキルアップでは、こういった資料が使われたかという点で、報告書の中に良い例として示されているので、職員は参考にできると思う。
- ・具体的な成果については、一部改善の事業数が増えたことが外部評価でやってきたことが成果につながったと思う。

【委員】

- ・職員にとっては、言われて書類を作って出すというだけで終わってしまうと負担

感になる。提出したことで何が変わるのかが分からない、意見をしてもらってもそれが活かされないなど、役に立った実感が無いと負担しか残らない。例えば資料を用意して、プレゼンするときうまく説明できたという実感があれば負担感は小さくなる。そういう意識が持てると、職員にとって負担だけで終わらない。

- ・カイゼンという言葉が国際語になるくらいで、常に前進、常に成長、常に改善を目指すのが日本人の特徴で、世界の流れかもしれないが、平衡状態で良い状態を保つというのもあって良い。それをマンネリ化と捉えるか、達成したというのか。業務としては成熟した状態になっていれば、それを続けているのはマンネリ化とは言わない。昨年やったことを今年もやれば良い、まあ良いかと終わろうとするのを、町民の視点でもう一回見直して欲しいということ。
- ・54 ページ業務改善に関する外部評価委員会の関わり方の中で、「職員自らが」とあるのは、担当者のみを示すようにも読み取れる。部課長も含めた全職員と分かるように表現を変えて欲しい。改善を行うのは担当者だけでなく、部課長も含めて方針を立てたり、進め方のチェックをしていかないと、改善は進まない。
- ・担当課のやる気を出すのに役に立ったというような話で書かれているが、個人の善意に任せ過ぎるのも良くない。この仕事をやれば自分の利益になるというのが基本。民間では給料が上がる。全員でやっていきましょうとスローガンを打ち上げているような感じだが、改善を実行したことによって褒美のようなものがもたらされるようなシステムがあると良い。
- ・公務員なのでどれだけ働いても給料が上がらない。自分のやったことをどうすれば目に見える形にできるかというのが、成果指標だと思う。住民がどう変わっていったか、相手が住民でなければ、プレゼン能力が上がって自分がやっていることを理解してくれたのかとかが大きな評価項目になる。利益と言っても、金銭には結びつかない。

【事務局】

- ・人事評価という形では、改善に取り組んでいる、成果を上げているという場合には上司が評価してボーナスに反映される仕組みはできている。
- ・達成感の部分では、好事例の資料を提示しているが、委員の方にも評価していただいたということで、作った本人にとって良い評価してもらったと思ってもらえるのではないかと思う。

<その他>

(来年度における対象事業の考え方について事務局より案を説明)

【委員】

- ・事業の統合は1日でできる。目的が一つであれば、統合するかしないかだけの話。収支についてもまとめれば良いだけ。
- ・予算付けの事業に引っ張られていると思う。合目的的に目標を設定して事業を設定するならばそれが良いが。
- ・事業を統合すると予算を削られるというのがあり、前年度の実績を確保したいというのもある。人事評価にもつながるかもしれないというのもある。上の人の認識を変える必要がある。
- ・2年間やってみて、事業の目的に対して活動指標と成果指標が合っていないものが多かった。56 ページに記載の成果指標の説明は、活動の後に成果が付いてくるという内容だが、本来ならば、まず目的があり、目的に対して成果を見つけ、その成果に対してどう活動すれば良いかというもの。その認識の違いで、指標の設定、目標設定をする時に、職員の感覚が違っていると感じた。
- ・公務員の考え方は目的が明確でないと言われている。例えば母親学級という健康づくりの事業があるが、目的は「母子の健全育成を図る」で、全国どこでも同じ。阿見町ではどんな母親になって欲しいのか、どんな風に子どもを育てたいのかというのを明確に示さずに「母子の健全育成を図る」だけでは目的にはならな

い。だが、実際にはそういう目的を立ててしまう。そこがぼやけているから成果を出せないというのは言われている。

- ・まず、成果目的を明確にして具体的に立てる。それが達成したかどうかを評価する、判断するためにはどういう成果指標を立てたら良いか、その目標を達成するためにはどういう手段・方法が必要かというのが活動指標に表れるという順番ということ。

【事務局】

- ・報告書に記載の内容は指摘の通り修正する。

【委員】

- ・例えば来館者の満足度を上げることを成果目的にすると、満足度を上げるという具体性の無いものを測るにはどういう指標を立てたら良いのかというのが成果指標になる。例えば満足度が8割になれば満足度が上がったということにした場合、満足度を8割にするためにはどういう活動をしたら良いかということになる。
- ・公務員の仕事が民間と違う部分は、事業が国から降りてくるというもの。自分たちがやるためにお金を取ってくるというのが本来だが、自分たちの意と反して国から降りてきたら、その事業をこなすためにというのが目的になってしまう。そこで目的設定がおかしくなる。事業を行った結果、自分がどうしたいというのが薄れてしまう。
- ・今回の事業では特定健診がある。国の設定した目標値にはほど遠い。おもとは特定健診によって病気につながる人をピックアップして保健指導とかいろいろな手段を使って、健康に戻して医療費削減、介護を減らすなどになっているが、まずは受診率の数値を上げるということになってしまう。健康になったかどうかは後回し。
- ・民間ならば、利益を出さなくてはいけないので、最低限売り上げを上げないといけないので、そのためにはどうしたら良いかと考える。

【事務局】

- ・57 ページの②については、目標設定が低い目標となっていたとあるが、事務局として担当課への指導も不足していた。担当課で作成したものについて、具体的に聴いたりして数値を考えてもらうなども必要だと感じている。

【委員】

- ・56 ページの2については、課長や担当者の姿勢が正論として書いてあるが、具体的にどういうことを頭に入れておいたらいいかというのが欠けていた。本委員会では指摘された事項、各課が解決すべき課題について整理し、それぞれ実現可能性を検討し、ランク付けした上で、今年度できるのか、来年度できるのか、数年かかるもの、10年以上かかるものとランク付けしていただいて、明示しておけば課長が変わっても継続性が生まれると思う。総合計画はあるが大雑把なもの。この委員会で指摘されたようなこまごましたものを実現させるためには、そういったものが無いと、町民には分からないし、改善が見えない。案の文章は抽象的で職員がどうしたら良いか分からないため、例として追加して欲しい。
- ・2年間やってきたが、できれば委員会に対する各課からの意見を聞きたい。例えば、良い指摘があったのか、不足していたかなど、感想があると思う。最後に1年間あるので、各課の皆さんがどう思っているのかは気になっている。
- ・アンケートでなく感想で良いでしょう。

【事務局】

- ・外部評価委員会は3年間の任期で実施している。来年度が最終年度で外部評価委員会の総括をしなければならない。何らかの形で外部評価の成果を確認したいと考えている